

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2020年 2月 8日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」寝屋川校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		パーティションや机などの位置で配慮を行う。	
	②	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			現時点では適切である。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		情報過多にならないようにシンプルにしている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		ミーティング等を行い、活動しやすい環境にしている。	室内温度、湿度にも配慮を検討する。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		ミーティング等を行い、活動しやすい環境にしている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		評価表をもとに保護者と会話するようにしている。	今回のアンケートをもとに、すぐに改善方法を考えていく。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			事業所内で評価の周知を行うと共に、評価・改善内容を会社にて集約し、ホームページにて公開する。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		第三者評価は、現時点では行っていない。必要に応じて検討を行う。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		定期研修を行っている。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		受付シートの記入とアセスメントシートにて確認を面談時に行っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		アセスメントシート等を利用し、面談で確認を行う。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		必要に応じて家族支援などに取り組んでいる。	地域支援に関して、取り組みが不十分であり、今後検討していく必要がある。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に沿って、指導員間で確認し、支援を行っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		指導員間で連携をとり、支援プログラムを立てている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		指導員間で連携をとり、支援プログラムを立てている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		イベント等で小集団活動を行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝ミーティング等で情報を共有し、内容の確認を行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員間で情報を共有し、支援内容や役割分担の確認を行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		研修やミーティング等を利用して、役割分担を行って改善に努めている。。	
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		日々の振り返りに加え、定期的にもモニタリングで支援計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		市町村役所等の担当者と交流を行っている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて、情報共有や連携を行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		該当者なし
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		該当者なし
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園への訪問を行っている。	移行時期を考え、各機関に連絡を取っていく。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		支援学校への訪問を行っている。	移行時期を考え、各機関に連絡を取っていく。

との連携	⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		市の機関や北河内連絡協議会の勉強会に参加。	
	㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		現時点では交流の機会を設けられていないが、今後に計画したい。
	㉒	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		市の機関や北河内連絡協議会の勉強会等に参加。	
	㉓	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		フィードバック等で内容の伝達と情報共有を行っている。	
	㉔	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	子どもを守る課等の関係機関に依頼し、対応を行っている。	イベント等の実施を検討中。
保護者への説明責任等	㉕	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時や利用状況の確認などで説明を行っている。	
	㉖	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約時やモニタリング後に作成した支援計画について説明し、同意を得ている。	
	㉗	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて面談を行っている。	
	㉘	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		イベントなどで交流の場を設けている。	保護者のニーズに沿う交流の機会を計画する必要がある。
	㉙	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		シートなどを作成し対応できるようにしている。	
	㉚	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページ等を活用して、行事の予定を発信している。	
	㉛	個人情報の取扱いに十分注意している	○		書類等鍵付きロッカーで保管、管理している。	
	㉜	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		緊急時対応など、電話等を活用している。	
	㉝	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域の方と交流できるイベント等は、実施できていない。
非常時	㉞	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアル作成を行い、定期的に訓練を行っている。	

等 の 対 応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		マニュアル作成を行い、定期的に訓練を行っている。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメントシート等を利用し、面談で確認を行う。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメントシート等を利用し、面談で確認を行う。	支援中に食事は行わない。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		他事業者の例を共有している	マニュアルシートを作成し活用できるようにしている。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年に1回以上研修を行っている。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		事前に確認を行っている。	運営規定や身体拘束についても重要事項説明書に記載し、該当児童がいれば対応している。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2020年2月8日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」寝屋川校 保護者等数（児童数）：7 回収数：7 割合：100 %

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	7					
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6			1		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	7					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6			1		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6			1		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	7					
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	5		2			園との連携を希望される場合、対応いたします。
保護者への説	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	7					

明 等	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	5			2	よくわからない	
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7					
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7					
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2			5	イベントへの参加が難しい。	できるだけ早い告知を行っていきます。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	7					
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	3			4		面談室にて評価結果を掲示しております。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	7					
非 常 時 等 の 対 応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6			1		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4			3		防災イベントを企画中です。
満 足 度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	7					
	㉓	事業所の支援に満足しているか	7					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。